

(令和6年10月2日)

大豆情報

秋田地域振興局農林部農業振興普及課
No. 3

Tel 018-860-3410

Fax 018-860-3834

雑草の抜き取り・適期収穫を行い高品質大豆の生産を！

1 気象経過と生育状況

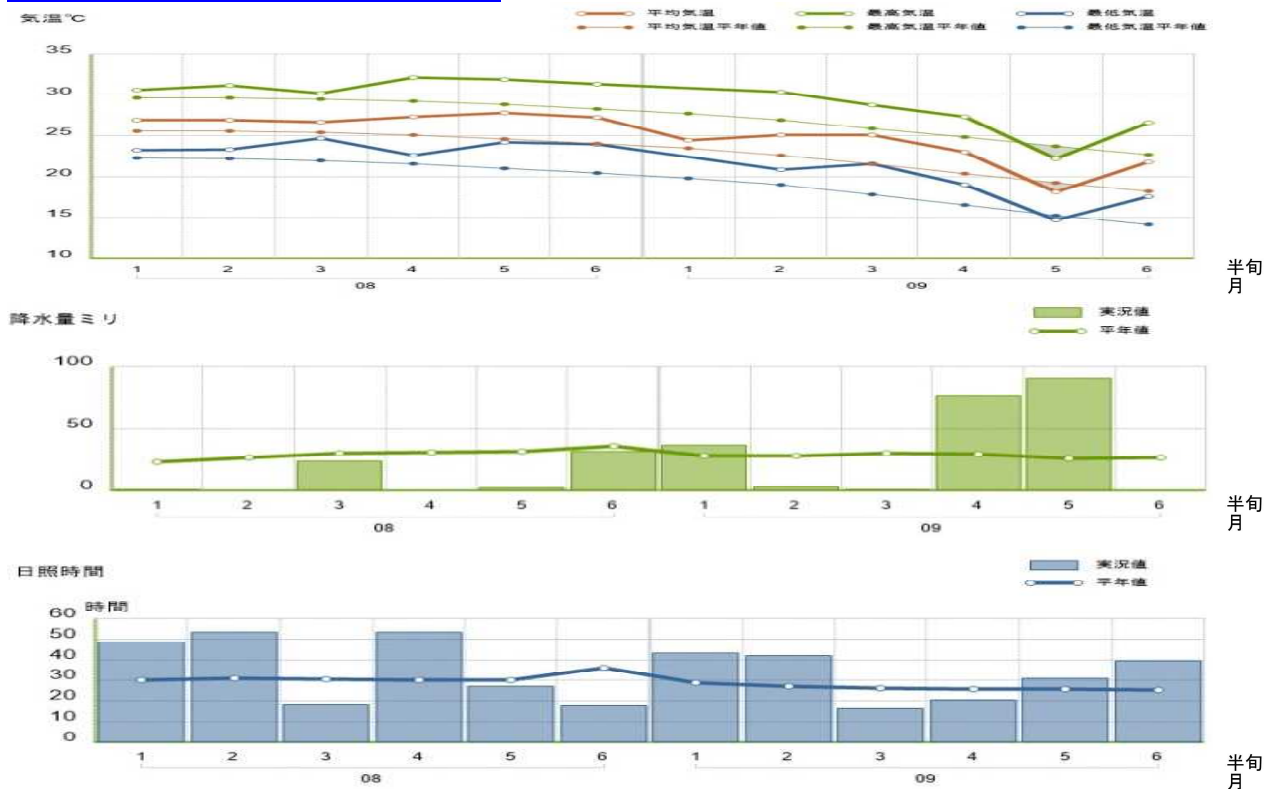


図 気象経過と平年値（アメダス秋田、農業気象システムから引用）

<気象と生育の概況>

8～9月の気温は、平年より高く推移しました。降水量は、平年よりも少ない日が多かったものの、9月4～5半旬は多い傾向でした。また、日照時間は平年よりも長い傾向でした。

9月30日調査では、主茎長は57.7cm(平年比109%)と長く、分枝数は3.7本(平年比130%)と多い状況でした。

管内では9月17日頃から葉の黄化が始まり、9月23日頃に黄葉期を迎えました(平年差±0日)。

表 大豆定点調査結果（9月30日実施）

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
主茎長	57.7cm	109%	104%
分枝数	3.7本	130%	120%

※管内定点ほ場4地点の平均値

2 排水対策について

台風や秋雨による停滞水は刈り取り作業に影響します。

台風等による大雨が予想される場合は、再度ほ場の明きょや排水路の点検・補修を行い、停滞水が発生するほ場では、必要に応じて畦切り等を実施します。

3 収穫作業について

1) 雑草等の収穫前の抜き取り、機械の調整

雑草や青立ち株をほ場内に残したまま収穫作業に入ると汚損粒発生の原因となります。汚損粒は、しわ粒とともに等級低下の大きな要因となるため、収穫作業に入る前に大型雑草や青立ち株を確実に抜き取りましょう。また、コンバイン等の調整・試運転等は、事前に済ませておくようにしましょう。

2) 収穫適期について

大豆の枯れ上がり程度、茎や子実の水分状態をよく見極め、計画的な収穫を行きましょう。刈り取り作業の遅れは、裂莢による収穫ロスやカビ・しわ粒の発生を助長します。

- ①大豆の成熟期は、莢を手で振った時にカラカラと乾いた音がする時期です。コンバイン収穫では汚損粒の発生を防ぐため、成熟期から10～15日後の茎水分が50%以下となった頃（茎がポキッと折れる頃）が収穫適期です。成熟後25日を経過すると子実水分の変動が大きくなり、品質の低下がみられるようになります。
- ②収穫は朝露により子実が湿っている時間帯は避け、午前10時頃から午後5時頃を目安に作業しましょう。
- ③コンバインへの土の掻き込みは、汚損粒発生の主な原因となります。草丈が短い場合は、コンバインの速度を抑えるなど、丁寧な作業に努めましょう。万が一、土がコンバインのヘッダ部に入った場合は、直ちに作業を中止して掃除してください。
- ④脱穀後は風通しのよい場所に置きましょう。乾燥施設等の都合で刈り取り後、直ちに乾燥作業を行うことができない場合は、保管場所や保管方法に配慮しましょう。

3) 乾燥時の留意点

高水分子実を急激に乾燥すると、含水率が粒の内部と外縁部で異なることにより粒の収縮が生じ、しわ粒や裂皮粒などの被害粒の発生を助長します。作業の都合で高水分の子実を刈る場合は、子実水分ごとの乾燥温度を目安に通風乾燥を行きましょう。

〈子実水分別の乾燥温度目安〉

子実水分18%: 室温+15℃以下
子実水分22%: 室温+8℃以下
子実水分26%: 無加温(常温通風)

※送風温度は30℃以下、乾燥速度は0.4%/h以下とする。